



Jichi 地域連携ニュース

- 新年のご挨拶
自治医科大学学長
自治医科大学附属病院病院長
- 診療科からのメッセージ
耳鼻咽喉科
感染症科

- 認定看護師の活動状況 「感染管理」
- 高血圧専門外来減塩指導コースのご案内
- 外来透析センターの開設
- NST研修会のお知らせ
- 診療機能情報に係るアンケート調査の御礼とお願い



新年のご挨拶

ナガイ リウソウ
永井 良三

自治医科大学 学長



すでに1月も末となりましたが、皆様にはよいお年をお迎えのことと存じます。

昨年末に政権が交代し、世の中の変化の慌ただしさをどなたも感じておられることと思います。最近の日本の社会変動の大きな原因は社会の高齢化です。医療では患者数が増え、医療費が増大するとともに、医療保険制度の維持も困難となりつつあります。そうした状況の中で大学病院では高度医療が求められ、同時に地域医療への支援も求められるようになりました。これらを達成することは容易ではありませんが、医療における分担と連携はいかなる時代でも必要です。実際、大学病院も地域の医療機関と連携しなければ、高度医療を推進することはできません。

自治医科大学附属病院では地域の医療機関との連携を推進するために、昨年、メールマガジンを発刊しました。大学病院における最新の医療と研究成果、さまざまな活動や要望を地域医療機関にお知らせし、同時に地域医療機関の状況を大学病院の教職員に理解いただくことを目的としました。

現在、自治医科大学附属病院では、安田病院長を中心として機構改革や診療機能の整備が進められております。またロボット手術システムの導入、そのためのトレーニング体制なども検討され、近いうちに実現すると考えております。

医療機能の分担と連携は、大学と地域の間だけではなく、医療職種間でも同じことが求められています。そのためには情報だけでなく、診療、教育、研修を通じた交流が必要になります。このメールマガジンを通じて、新しい医療連携のモデルが作られることを願っております。

ヤスタ ヨシカズ
安田 是和

自治医科大学附属病院 病院長

新年となり早くも一ヶ月が過ぎようとしておりますが、あけましておめでとうございます。

毎年この時期になると救急患者が病院に集中します。近年勤務医の労働環境の改善がいわれておりますが、夜間、休日の医療体制に対する病院の比率が高まり、地域の医療をどのように分担していくか、建設的な協議が進められることを願っています。また地域の患者さんにも夜間休日の医療機関の上手な利用の仕方をご理解いただけるような活動を皆様と共に行っていきたいと考えております。



さて自治医科大学附属病院は、新棟が完成後10年余経過しましたが、急速な医療の進歩と変化に、ソフト面、ハード面共に見直す時期がきているように思われます。今後の10年を予測した長期的な観点から病院運用の方法を見直し、従来の縦糸である診療科中心の運営に加えて横糸として各科横断的な運用を進める事を目的に、1月1日付で企画経営部を設立しました。今後は外来や病棟、中央診療部などの運営をシステムとして認識し、さらに進む高齢化医療をはじめ、変化する医療政策に柔軟に対処できる体制を構築していきたいと考えています。これらは自治医大附属病院の理念である安全で良質な医療、地域に開かれた医療を継続的に提供する事が主な目的ですが、同時に医療者の快適な職場の構築と密接に関係しています。

自治医科大学附属病院は先進的な医療を提供する病院として発展するよう努力するとともに、地域の医療機関とさらに密接な医療連携を進める所存です。本年もご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科科長(教授) 市村 恵一

耳鼻咽喉科は扱う対象が脳と眼球以外の首から上全てでして、治療手段も手術が多いことから、頭頸部外科とほぼ同義になります。全国的には耳鼻咽喉科・頭頸部外科という診療科名にしているところが増えておりますが、当院では今のところは長い名前になることを避けようと、そのままの名前にしております。開院当初から当科の診療の中心は頭頸部癌でした。今でも上顎洞癌の集学治療は高い治療成績を誇っておりますし、他の癌についても癌専門病院に負けない実績を誇ります。甲状腺の手術も一般外科が手を引いてから当科単独となり、手術までの待機時間が長くなりました。他に力を入れているのが鼓室形成術と内視鏡下副鼻腔手術で、何れも優れた治療成績をおさめております。また、国内でほとんど手がつけられていないオスラー病の鼻出血に対する鼻粘膜皮膚置換術や外鼻孔閉鎖術は当科の独壇場で、日本全国から患者が到来します。音声外科は従来手薄でしたが、最近では喉頭枠組み手術を導入し、活性化しております。扁桃やアデノイドの手術も大学病院としては多いのですが、この理由は腎臓内科や小児科からのIgA腎症に対しての扁桃摘出依頼が多いこと、顔面発育への悪影響を是正するために近隣歯科からの扁桃やアデノイド摘出の依頼が多いことからです。このように手術治療が主流である一方で、嗅覚、補聴器、アレルギーなどの内科的な領域は専門外来を設け、患者さんの満足を得ております。

ここで特に鼻出血治療について触れましょう。昔は多量に鼻血が出たらガーゼパッキング、それでも止まらなければベロックタンポンかバルーンカテーテルを入れて止める、というのが一般的な治療でした。こうすると、ガーゼなどを入れられるのも痛いし、抜くときも痛い。さらにガーゼがパンパンに鼻に詰めてあると頭は重いし、口呼吸でのども痛くなる、といった様に患者さんにとってつらい治療でした。が、今では内視鏡の進歩により、出血箇所を確実に見て、そこを凝固するのが主流になってきています。また出血点が明らかでなくとも鼻腔後方からの出血なら蝶口蓋動脈を同定して、そこを凝固する方法も有効です。しかし、これだけで対処できないのがオスラー病です。全身の血管の筋層や内膜の弾性板が欠損するために、わずかな刺激のみで出血し、血管収縮が出来ないため自然止血が期待できません。鼻の粘膜は薄いし、刺激も受けやすいので鼻出血はほとんどのヒトででて、頻回の大出血となります。従来は電気凝固を反復するしか手が出せませんでした。効果はありませんでした。当科で行っているのは出血の主な部位である鼻粘膜の前半部を皮膚で置換する方法です。



《オスラー病での鼻粘膜血管拡張》

厚い皮膚に覆われるために血管が刺激を受けにくくなり出血しなくなります。しかし、鼻全部を皮膚で置換するのは技術的にも難しいし、また鼻の機能を失ってしまうことにもなります。したがって、後方からは出血がまだありますが、頻度も程度もずっと少なくなり、QOLが向上します。最重症では空気の流れの刺激だけでも出血するので、この場合は鼻孔を塞いで刺激がなくなる様にします。こういう手術は今まで7名に行っております。鼻から呼吸が出来ずつらい思いをされますが、出血するよりはよいという事で満足されております。

感染症科

感染制御部部長(兼)感染症科科長(准教授) 森澤 雄司

わが国では大学病院であっても、医療安全の一端としての感染予防対策を担う‘感染制御部’ではなく、専門的に感染症診療を担当する‘感染症科’が独立に設置されている施設は非常に少ないようです。

これまでわが国における感染症診療は、それぞれの専門領域の中の一部に位置付けられることがほとんどでした。しかし、さまざまな新興・再興感染症や新たな高度耐性菌が社会にとっての重大な問題となっている今日、あるべき姿を模索しつつ、自治医科大学附属病院・感染症科は、入院症例のコンサルテーション業務を中心に専門的診療を組織横断的に展開しています。感染症診療では、臨床診断、患者背景や基礎疾患に基く臨床推論から起因菌を推定したエンピリック・セラピーだけでなく、確定された起因菌に対してより狭域な抗菌薬へとデエスカレーションする至適抗菌療法が目標となります。週3回のチャートラウンドでは毎回30例程度の症例を議論します。



また、海外渡航が日常的となっている現状では旅行医学の領域で実践的な診療を提供する必要もあり、総合診療部や医動物学教室、さらには済生会宇都宮病院との連携も図っています。

さらに、残念ながらHIV感染症も増加の一途を辿っており、HIV診療にも専門的な診療を提供する必要があります。感染症科はHIV/AIDS症例の診療にあたっており、HIV/AIDS症例の入院管理も担当する場合があります。

感染症科は感染制御部や臨床検査部・細菌検査室との連携も緊密にとりつつ、医療現場に求められる感染症専門医の育成を第一の目標に考えています。

感染管理認定看護師の具体的な活動は、医療関連感染サーベイランス、院内の感染対策遵守状況を見まわらうラウンド、院内感染対策マニュアル作成、ならびに感染情報を提供しながらコンサルテーションや教育・指導を行うことです。感染対策と聞くと微生物のことはわからないと拒否反応を起こしてしまう人もいますが、そんなに難しいことはありません。微生物の伝播を遮断するための対策（主に標準予防策）を日常的に実施していれば、大部分の医療関連感染は防止できます



当院では現在2名の感染管理認定看護師が感染制御部に所属し、互いに協力しながら院内での感染管理活動をしています。同時に、栃木地域感染制御コンソーシアムを通して、栃木地域の感染対策の標準化を目指し、情報共有や感染対策の検討、施設や小学校などの現場に赴き、出張感染教育などの啓蒙活動もしています。

微生物は残念ながら目に見えません。感染対策は医療安全の一環です。有害事象が起ってからでは遅いので、つつい口うるさく指導をしています。そんな存在も病院には必要かなと聞き直り、感染管理を行っています。

臨床栄養部



高血圧専門外来減塩指導コースのご案内（臨床栄養部・循環器内科）

減塩の効果として、血圧の低下、降圧薬投与中の高血圧患者における降圧、そして、心血管リスクを減少させることが示されています。

当院の高血圧専門外来では、**管理栄養士による減塩指導コース（5回シリーズ）**を開設しました。食事記録等から食塩過剰の要因となる食品や調理法を確認し、尿中Na排泄量から算出した推定食塩摂取量をもとに過剰要因に対する対策指導を行っています。実際の食塩摂取量の提示は、減らすべき食塩量が明確となり、取り組みやすいからです。

回数	内容	評価項目
第1回 (初回)	<input type="checkbox"/> 食塩過剰要因の理解 <input type="checkbox"/> 減塩対策と行動目標設定 <input type="checkbox"/> 食塩6g/日の目安	<input type="checkbox"/> 食塩嗜好調査 <input type="checkbox"/> 食物頻度調査 <input type="checkbox"/> 尿データ（随時尿、蓄尿）
第2回 (半月後)	<input type="checkbox"/> 実施状況の確認と問題要因の指導 <input type="checkbox"/> 良好な減塩行動の支援	<input type="checkbox"/> 食事記録 <input type="checkbox"/> 生活記録（血圧、体重）
第3回 (1ヵ月後)	<input type="checkbox"/> 実施状況の確認と問題要因の指導 <input type="checkbox"/> 良好な減塩行動の支援	<input type="checkbox"/> 食事記録 <input type="checkbox"/> 生活記録（血圧、体重）
第4回 (2ヵ月後)	<input type="checkbox"/> 実施状況の確認と問題要因の指導 <input type="checkbox"/> 良好な減塩行動の支援	<input type="checkbox"/> 食事記録 <input type="checkbox"/> 生活記録（血圧、体重） <input type="checkbox"/> 尿データ（随時尿）
第5回 (3ヵ月後)	<input type="checkbox"/> 継続実施にむけて	<input type="checkbox"/> 食塩嗜好調査 <input type="checkbox"/> 食物頻度調査 <input type="checkbox"/> 尿データ（随時尿、蓄尿）

また、ライフスタイルの調整方法として行動療法を取り入れ、セルフモニタリングとして日々の行動を観察し記録を行っていただきます。家庭血圧、体重、食事メモなど、患者と相談して項目を設定し、記録をつけることで、患者ご本人が行動の問題点を把握し効果を認識されております。面接時には、記録中の良好な減塩行動について着目し、習慣化されるようサポートしています。

尚、減塩指導コースの受講には、高血圧専門外来の受診が必要となります。

問い合わせ先:自治医科大学循環器内科学 齋藤君代（月～金） 中野真宏（金曜のみ）
 電話:0285-58-7538 FAX:0285-44-5317

外来透析センターが稼働しました！！

透析部

部長(教授)
 医員(教授)

草野 英二
 武藤 重明

当院では、30年の長きに亘り、入院患者、外来患者とも1カ所の透析センターで透析診療を行ってまいりました。しかし、当院における新規導入の入院透析患者数および手術や重篤な合併症のため入院する慢性透析患者数が年々増加し、当院新規導入の外来透析患者の長期間受け入れが困難でありました。

このような状況を踏まえ、本年1月9日に上記透析センターとは別に、『外来透析センター』を西棟別館2階に開設しました。これまで透析を行っていた透析センター(『入院透析センター』)では、主に入院患者の血液透析と、外来腹膜透析患者の診療を行います。一方、新規に開設した外来透析センターでは、外来通院の血液透析患者の診療を行います。

外来透析センターのベッド数は現時点で20床ですが、最終的に40床に増床する予定であります。また、現在月、水、金の午前のみ血液透析を行っておりますが、今後患者数に応じて、月、水、金の夜間及び火、木、土の午前にも透析を予定しております。

外来透析センターでは、原則当院で新規に血液透析を導入し、ご自身で通院できる患者を受け入れたいと考えております。どうぞ、上記の件をご理解頂き、入院透析センターに加え、外来透析センターにつきましてもご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご不明な点がございましたら、**外来透析センター**（TEL: 0285-58-7579; FAX:0285-44-8171）までご連絡下さい。



♪♪♪ 附属病院からのお知らせ ♪♪♪

✿ NST研修会のご案内 参加無料(申込み不要)

会場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂 (本館西側の茶色の建物)
対象 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士等の養成を目的とした研修
問合せ先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

演題	日程	講師
摂食・嚥下機能と嚥下障害患者へのケア	2月6日(水) 18~19時	伊藤弘人 医師(歯科口腔外科) 戸田浩司 看護師(摂食・嚥下障害看護認定看護師)
・栄養指導について ・在宅栄養、院外施設での栄養管理法について ・簡易懸濁法について	3月5日(火) 18~19時	荒川由起子 管理栄養士(NST専任管理栄養士) 古内三基子 師長(NST専任看護師) 笹原裕美子 薬剤師(NST専任薬剤師)

✿ 診療機能情報に係るアンケート調査の御礼とお願い 地域医療連携部 病診連携室

昨年12月に当院の「地域医療機関情報のデータベース」作成のための診療機能情報のアンケート調査をお願いいたしました。多くの医療機関様にご協力いただき感謝申し上げます。

また、年末年始の繁忙時期でしたので回答が遅れている機関様につきましては随時追加し、患者紹介や転院調整等の地域連携に活用してまいりたいと思いますので、何卒ご協力をお願いいたします。

発行者 自治医科大学附属病院地域医療連携部 TEL 0285-58-7461 FAX 0285-44-5397 メール byoushin2@jichi.ac.jp